

令和8年6月24日

京都府農林水産技術センター農林センター

台風シーズンに備える技術対策

農業技術情報（第2号）

台風の接近が予報されており京都府も大雨・強風となる可能性があります。気象情報に注意して警戒するとともに、以下を参考にして十分な対策を講じてください。

但し、人命第一の観点から、台風通過中や雷鳴が聞こえる間は絶対に作業を行わず、通過後も気象情報を確認した上でほ場周辺の安全に十分注意し、状況が治まってからの事後対策作業をお願いします。

1 水稻

（1）台風通過前

（ア）冠水防止のため、排水口や排水路の確認を行う。

（イ）強風対策として、深水管理を行うことで、倒伏を防ぐとともに、急激な脱水による葉痛みを防ぐ。

（2）台風通過後

（ア）滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。

（イ）冠水や強風により、白葉枯病などの病害発生が助長されるので、発病状況をよく観察し、発生初期に殺菌剤を散布する。

2 豆類

（1）台風通過前

（ア）豆類は湿害に弱いため、必ず排水路や排水口等の点検を行い滞水が生じないようにする。

（2）台風通過後

（ア）ほ場内に滞水している場合は直ちに排水し、長時間の滞水を避ける。

（イ）株が倒れている場合は、莖や葉が地面に接している部分を起こす。ただし、無理に引き起こすと折損を招くため注意する。

（ウ）莖葉の傷や泥はねにより、莖疫病や斑点細菌病などの病害発生が助長されるため、発病状況をよく観察し、発生初期に殺菌剤を散布する。

3 野菜

（1）台風通過前

（ア）明きょや排水路の点検・整備など、排水対策をしっかりと行っておく。

- (イ) パイプハウスは概ね 30m/s 以上の風速で大きな被害が発生する。ハウス栽培については、ハウス内に風が吹き込まないように、被覆資材の破損部を補強し、しっかりと閉め切る。また、資材固定金具やハウスバンドが緩んでいないか点検して締め直し、サイドが風であおられないよう固定する。

(参考) 園芸ハウス台風対策マニュアル

<http://www.pref.kyoto.jp/nosan/news/documents/detailverall.pdf>

また、風に飛ばされたものがハウスに当たって破損する場合が多いので、周囲をよく整理し、風に飛ばされやすいものは片付けておく。

- (ウ) 露地栽培では支柱やフラワーネットを点検して補強し、しっかり固定する。直播きでまだ生育初期の場合は、べたがけ資材等で茎葉を押さえる。その際、べたがけ資材は風にあおられないようにしっかり固定する。また、ほ場が冠水しないよう、排水路を整備する。
- (エ) 果菜類では、根痛みによる草勢低下を防ぐため、摘果や若どりにより着果負担を軽減する。

(2) 台風通過後

- (ア) 滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。
- (イ) 液肥（500～1,000 倍）を施用し、草勢の早期回復を図る。
- (ウ) 風雨による傷から病原菌が侵入し、病害の発生が予想されるため、こまめに観察し、発生初期に防除を行う。
- (エ) 収穫可能なものは速やかに収穫し、また、播種直後で発芽不良の場合は、直ちに播き直しを行う。

4 茶

(1) 台風通過前

- (ア) 新植、幼木茶園は、根切れなどの風害を受けやすいので、株元に土寄せを行う。特に、風当たりの強い箇所では、杭等に茶樹を結束する。
- (イ) 傾斜地茶園では、浸食防止のため土壌表面のマルチや周辺排水溝の整備を行う。
- また、新しく造成した茶園では、降雨量が多いと土壌浸食の恐れがあるため、排水路を整備する。
- (ウ) 被覆棚では、ほどけた被覆資材が強風を受けてあおられ、棚ごと倒壊する恐れがあるため、被覆資材が支柱等へ確実に結束できているかを確認する。
- 直掛け被覆を行っている茶園では、可能であれば事前に被覆の撤去（及び摘採）を行うことが望ましい。被覆の撤去が困難な場合は支柱等で覆いを補強し、風の影響を低減する。
- (エ) 挿し木床では、トンネルのビニールが強風で飛ばされないよう、杭や紐などで固定するとともに、日よけの被覆資材を開けて、支柱等に結束する。

(オ) 製茶工場では、雨水が浸入しないように十分に点検する。

(2) 台風通過後

(ア) 茶園が浸水した場合は、速やかに排水を図るとともに、漂着物を除去する。

(イ) 強風で株元が緩んだ幼木園では土寄せを行い、地際部や根を保護するために敷草等を行う。

(ウ) 土砂が流入した場合は速やかに取り除く、また、表土が流亡している場合は早急に土入れを行う。

(エ) 挿し木床の被覆を台風前に解除している場合は、日光がさす前に被覆して日焼けを防止する。

(オ) 製茶工場が浸水した後に、機械類に通電を再開する場合には、十分乾燥させた後、使用マニュアル等により手順や注意事項を確認するとともに、漏電やショートに留意した対応を行うこと。また、状況によってはメーカーによる点検を受けること。作業時にはヘルメット等を着用し複数人で作業をするなど、安全の確保に留意すること。

5 果樹

(1) 台風通過前

(ア) 園内の排水対策を徹底する。

(イ) 防風ネットは、柱の倒壊を防ぐため、控え線や杭を打って補強する。また、ネットの破れ目を補修しておく。

(ウ) 果樹棚は、周囲線の留め金、アンカーからの控え線、吊り線を点検し、切れないように補強しておく。また、棚の揺れ止め補強を行っておく。ハウス（雨よけ含む）では、被覆が破れないように、押さえバンドで補強するとともに、ハウスごと飛ばないように、柱から控え線を張って補強しておく。

(エ) 強風による落果が懸念されるため、収穫可能な果実は事前に収穫する。
(農薬の収穫前日数に注意)

(2) 台風通過後

(ア) 骨格枝が完全に折れた場合は、鋸等で折れ口をなめらかに切り戻して、癒合剤を塗布する。不完全な場合は固定し、癒合面が乾燥しないようにビニール等で覆う。

(イ) 冠水した場合は、速やかな排水に努める。

(ウ) ブドウではべと病、ナシでは黒星病や黒斑病、モモではせん孔細菌病、カキでは炭疽病等の発生が予想されるので、殺菌剤を散布する。